

日本の漁業外交 —さかなクンと学ぼう—



さかなクンと学ぶ「持続可能な利用」

日本人は昔から海の恵みと共に生きてきました。まぐろ、さば、さんまなどのお魚は、日本の食卓に欠かせません。しかし今、世界では、お魚を始めとする水産資源は、その約3分の1は過剰に利用されていると言われ、その減少が心配されています。また、今後人口が世界的に増加し、食料が足りなくなれば将来、今までのようにお魚を食べられなくなる日が来るかもしれません。お魚をこれからも獲り続け、おいしく食べていくためにはどうすればよいのでしょうか？ 世界有数の漁業国、水産資源の消費国である日本は、この問題の解決に大きな役割を担っています。このパンフレットでは、「海とさかなの親善大使」さかなクンと一緒に、私たちにとってこれまで以上に大切な「持続可能な利用」をキーワードとして、日本の取組を学んでいきましょう。



若手漁業室員O.M.

外務省一年目の新人。入省前からの希望かなって漁業室に配属。好きなさかなは、エイ。「お魚は日本の大事な食文化です。外交面での課題や取り組みをわかりやすくお伝えします！」

若手漁業室員F.T.

タンザニア帰りの若手職員。漁業室歴数ヶ月。マグロ、ウナギ等を担当。好きなさかなはブリ。「国際社会で大きな役割を担っている日本の取組を、一緒に楽しく勉強していきましょう！」



▲マグロについて話し合う国際会議の様子
(漁業室公式ツイッターから)



▲外務省食堂のサバ定食



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

漁業外交と「持続可能な利用」

さかなクン: 水産資源の持続可能な利用とは、具体的にどのようなことなのでしょう。

若手漁業室員OM: 一言で言えば、お魚をはじめとする海の幸を、獲りすぎないように気をつけながら、利用していくことです。海は広く、つながっており、日本だけのものではありません。だから、他の国と協力することが大切です。そこで日本は、他の国とルールを作って、そのルールを守っていくための取組みをしています。

日本の取組その(1) 持続可能な漁業のためのルール作り

さかなクン: 日本は、「地域漁業管理機関(RFMO:アールエフエムオーと呼ばれる)」を通じて、持続可能な漁業のためのルールを作っていると聞きました。このRFMOってどういったものなのでしょう。

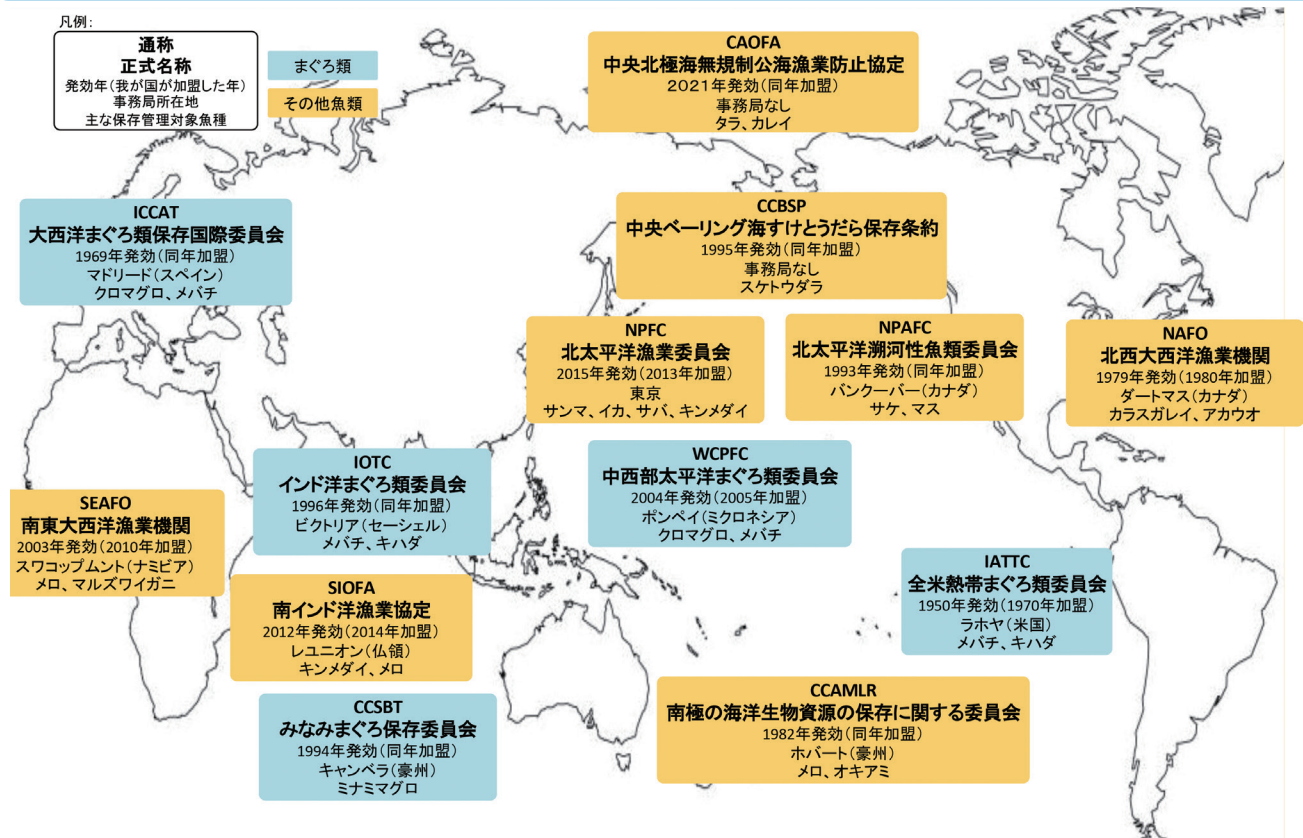
若手漁業室員FT: RFMOは、お魚を地域の国々で話し合いながら管理するために作られた国際機関です。日本は13個のRFMOに参加していて、水産庁や外務省の職員が会議に参加し、漁獲枠や漁獲方法を話し合っています。

さかなクン: ギョギョッ! そんなにたくさんあるんですね。日本人にとって身近なまぐろ類、さば類、サンマやイカなども扱っているんですね。

ギョギョッ



● 日本が加盟している地域漁業管理機関 ●



さかなクン: 大西洋のクロマグロが減ってしまったので、ICCATT(アイキャット)というRFMOでは、日本を中心に関係国で漁獲量を制限し、大西洋クロマグロが増加したと聞きました。

若手漁業室員FT: 太平洋のクロマグロも同じように漁獲量を制限して、資源の回復に努めているんですよ。

さかなクン: 獲りすぎて減ったお魚を、外交を通じて持続可能にすることが、未来のお魚と海を次世代につないでいくことになりますね。



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

日本の取組その(2)「違法・無報告・無規制(IUU)漁業」の対策

さかなクン:最近、IUU漁業という言葉をよく耳にします。SDGs 14.4に位置づけられるなど、世界での注目も高まっていますよね。

若手漁業室員OM: IUU漁業は法律やルールに従わない漁業活動で、密漁の国際版のようなものです。日本政府は、責任ある漁業国として、政府一体となって対策に取り組んでいます。

さかなクン: IUU漁業を防ぐために、どのような取組が行われているのでしょうか。

若手漁業室員FT: 日本は、地域漁業管理機関(RFMO)で、IUU漁船の「ブラックリスト」を作成したり、途上国に、IUU漁業対策のための支援をしたりしています。また、IUU漁業を防ぐには、世界中のパートナーと、IUU漁業対策の大切さを共有することが大切です。例えば、日本が議長となった2019年のG20大阪サミットの首脳宣言では、IUU漁業対策の重要性が明記され、世界のリーダーたちがそれに合意したんです。



G20 大阪サミットの首脳宣言(2019年)

違法・無報告・無規制(IUU)漁業は、世界の多くの地域において、引き続き海洋の持続可能性にとって深刻な脅威となっているため、我々は、海洋資源の持続的な利用を確保し、生物多様性を含め、海洋環境を保全するために、IUU漁業に対処する重要性を認識しIUU漁業を終わらせるという我々のコミットメントを再確認する。



▲G20大阪サミット
(外務省ホームページ)

さかなクン:まさに外交の腕の見せ所ですね!では、IUU漁業を終わらせるために、私たち一人ひとりができることはありますか。

若手漁業室員OM: IUU漁業によるお魚が市場に出回って、知らないうちに私たちがそのようなお魚を食べているかもしれません。まずは消費者一人ひとりが、お魚やそれを獲ってくれた漁業者の皆さんに感謝しつつ、普段食べているお魚が、どこでどうやって獲れたのか想像してみることが大切ではないでしょうか。



さかなクン: 海の豊かさを守るためには、使い捨てプラスチックを使わないことに加えて、お魚さんを食べる時に、これはどこから来たお魚なのだろうかと考えてみることから始めてみたいですね。

動画は
こちら



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

ぎょぎょうが いこう あつか おも さかな 漁業外交で扱う主な魚たち

サンマ

©2022ANAN AND Tm.

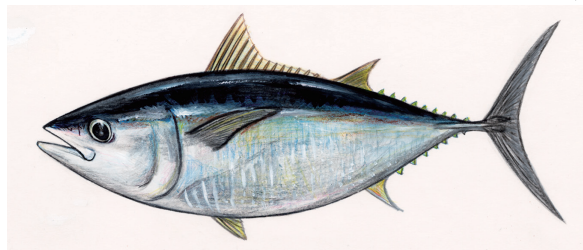


日本の食卓に馴染み深いサンマは、北太平洋漁業委員会 (NPFC) という地域漁業管理機関 (RFMO) で管理が行われています。

科学的な資源評価を行い、適切な保存管理措置を採択し、国際的な資源管理を進めることが急務となる中、日本から重点的な働きかけを行った結果、漁獲量に規制が設けられるようになりました。

マグロ

©2022ANAN AND Tm.



日本にとって特に重要なのが、かつお・まぐろ類です。日本周辺水域を対象に含む中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) や、最多のメンバーからなる大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) といった機関で管理が行われています。

ニホンウナギ

©2022ANAN AND Tm.



ニホンウナギは、日本の食文化の一部を担う食材ですが、資源が減少しています。日本、中国、韓国及び台湾といった国・地域が協力して資源管理を行うことが必要です。

ウナギ資源の減少への国際的な関心は高まっています。日本は、2012年から「ウナギの資源保護・管理に係る非公式協議」の定期的な開催を主導して、持続可能な利用に貢献しています。

さかなクン



©2022ANAN AND Tm.

お魚の「持続可能な利用」と、日本の漁業外交について、一緒に勉強してきました。いま、お魚が暮らす環境は海洋プラスチック問題など様々な問題を抱えています。

これからもずっと美味しいお魚を頂くために、わたくしたち一人ひとりが毎日の生活のなかで出来ることをギョー一緒にレッツ・ギョー！



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

2022年3月